

本 2025

前期日程

令和 7 年度入学試験問題（前期日程）

総 合 問 題

芸術地域デザイン学部
芸術地域デザイン学科

—— 解 答 上 の 注 意 事 項 ——

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙 3 枚と下書き用紙 2 枚（白紙 1 枚と原稿用紙 1 枚）がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

設問1 次の英文を読み、問いに答えなさい。

(文章出典：Setsu Yanagi. The Beauty of Everyday Things. 2019. Penguin. 一部
改変)

1) miscellaneous 雑多な、いろいろな 2) forebears 先祖

3) daunting 気の遠くなるような 4) momentum 勢い

5) fervent 熱心な

6) falsify ごまかす、偽る

問1 ①の下線部を日本語に訳しなさい。

問2 ②の下線部 it は何を指すか記号で答えなさい。

ア folk art

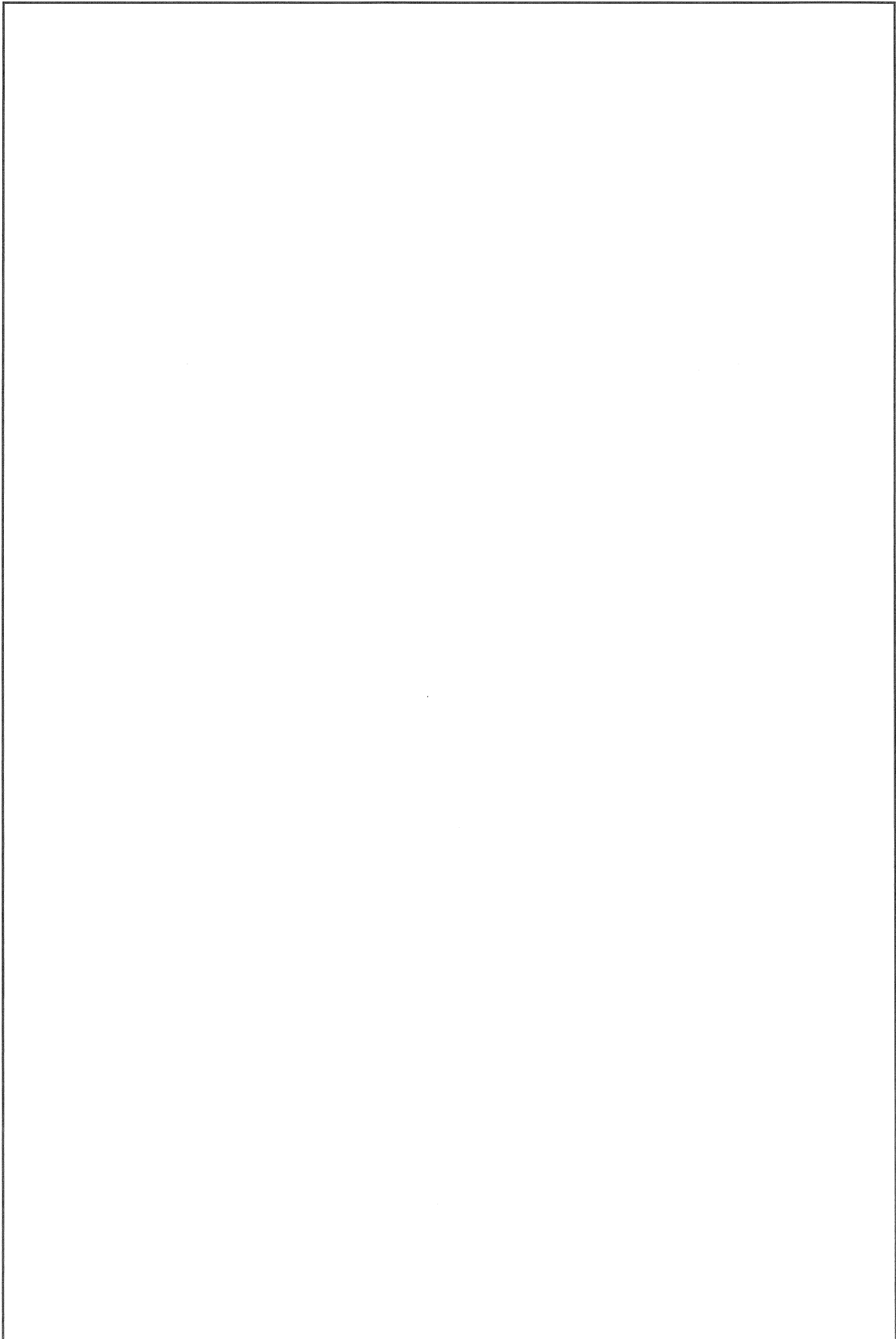
イ favor

ウ senseless momentum

エ our times

問3 ③の下線部の筆者の意見の理由について、本文を踏まえて日本語で説明しなさい。

設問 2 次の文章を読み、問いに答えなさい。



(写真出典：Greenz ホームページ「“うわさ”が“うわさ”を呼んで…商店街が活性化?! “八戸のうわさ”プロジェクト」 <https://greenz.jp/2010/12/29/hachinohenouwasa/>)

問1 山本耕一郎さんのアートイベント「八戸のうわさ」の狙いと効果について、簡潔に述べなさい。

問2 このような地域におけるアートプロジェクトが実践されるたびに、アートは目的か手段かの議論が沸き起こる。「地域におけるアートプロジェクトは目的か手段か」についてあなた自身の考えを論理的に 700 字以内で述べなさい。

設問3 次の文章を読み、問いに答えなさい。

(文章出典：多和田葉子『言葉と歩く日記』岩波書店、2013年、一部改変)

問1 下線部(A)に関連して、PさんとQさんが以下の会話をしています。あなたがPさんなら、(ア)に入るものとしてどのような言葉を選びますか。10文字以内で答えなさい。

Pさん「ドイツ語の水と炭酸水をめぐる話がおもしろいね。」

Qさん「『うるさい水』が、とてもおもしろい表現だと思った。日常とは異なる視点から対象を見ることで、見慣れたものの価値が変わり、新しい価値に気付けるという例だね。私たちの身近なところにもあるかな？」

Pさん「パンはどうかね。」

食パンは、スーパーに売っているものだと6枚や8枚に切られて売られているけど、もともとは大きなパンとして焼かれて、商品になるときにスライスされているよね。」

Qさん「知っているよ。パン屋さんで買うときに、1斤ください、と言って買うと大きなパンが買えるよね」

Pさん「そうそう。なので、あえてパン屋さんで1斤のパンを買うときに、『(ア)パンをください』と言ってみるとか」

Q さん それはおもしろいね。日常を新しい視点で見ないと見えてこない例だね。

問2 下線部(B)に関して、以下のリストから佐賀県の特産品を1つ選び、冗談や言葉遊びを用いながら、選んだ特産品が魅力的に見えるようなキャッチコピーを作成しなさい。
また、作成したキャッチコピーの魅力について、簡潔に説明しなさい。

※キャッチコピーとは、人の注意を惹く宣伝文のことです。

※ユニークかつ独創的なキャッチコピーを作成すること。

佐賀県の特産品リスト

タマネギ、ミカン、レンコン、海苔、イチゴ、レモン、シャインマスカット、 米、小麦、お茶、ようかん、プリン、ワラスボ、ムツゴロウ
--